

MR造影剤を受けられる方へ(説明書)

1 造影検査について

造影剤と言う薬剤を使用して行う検査です。造影剤を使用することで、異常の有無や病状の性状、範囲などを詳しく描出することができ、より正確な診断を行うことができます。

2 造影剤の副作用

造影剤は改良され副作用の出る頻度は低下し、その程度もより軽度になって来ていますが、まれに症状が出る場合があります。

① 軽い副作用

吐き気・嘔吐・かゆみ・じんましん・熱感などが100人に3人程度(約3%)におこりますが治療の不要な事がほとんどです。

② 重い副作用

血圧低下・呼吸困難・意識消失・腎不全等が2.5万人に1人(0.004%)の割合で発生します。きわめてまれですが、40万人に1人(0.00025%)の割合で死亡に至る例もあります。

③ 遅発性副作用

検査終了後数時間から数日くらいの間に頭痛・吐き気・めまい・じんましんなどの症状をおこすことがあります。

何か気になる症状が現れた場合は、検査終了後にお渡しする「造影剤の注意書」に記載してあります連絡先にご連絡ください。

④ 副作用時の対応について

副作用が発生した場合には適切な処置を行います。

3 血管外への漏れ

造影剤の注射中に、血管の外に造影剤が漏れることがあります。注入中に痛みがあるときはすぐにお知らせください。

少量の漏れは心配いりません。きわめてまれですが多量に漏れた場合には、別の処置が必要になります。

<注意事項>

- ◆ 過敏症の既往がある場合、ガドリニウム造影剤は禁忌です。
- ◆ 気管支喘息の方は、医師にお申し出ください。(診断上やむを得ない場合を除き、投与しないこと。喘息以外の患者よりも高い頻度でショック、アナフィラキシー等の重篤な副作用が発現するおそれがあることが報告されています。)
- ◆ 食事は検査4時間前までに済ませて下さい。
※ 飲水(水、お茶は飲んでかまいません)

相模原中央病院 042-754-2211(代)

2025年3月24日改訂